

『うまく伝えたい、でもどう伝えればいい？私の仕事の魅力』 ～サイエンスアゴラでの経験から学ぶ「仕事の伝え方」～

" How can I best communicate the appeal of my work and its importance? "
～Learning how to talk about work through experiences at Science Agora～

(一社) 日本実験動物技術者協会 科学コミュニケーション推進委員会

(一社) 日本実験動物技術者協会は、昨年の 10 月 26 日～27 日に東京で開催されたサイエンスアゴラに、一昨年に續いて 2 回目の出展を行いました。この出展を通じて、実験動物や私たちの業務の内容を、一般の方々に伝えることの難しさを改めて実感しました。こうした経験から、今後は伝えるための「話題の引き出し」を増やすことができれば、実験動物や動物実験に携わる実験動物技術者の役割や仕事の意義について、社会からの理解を少しでも深められるのではないかと考えています。この課題への取り組みとして、昨年から「伝える力」のスキルアップを目指したワークショップを開催しています。

初年度には、企業展示ブースと連携したコラボ企画「実験動物のおうちづくりワーク」を実施し、大変ご好評を頂きました。本年のワークショップでは、「アニマルウェルフェア（動物福祉）」に焦点を当てます。

アニマルウェルフェアとは、動物の心と体の状態を総合的に捉える概念であり、実験動物に限らず、動物園の動物、愛玩動物、産業動物など、人間の管理下にあるすべての動物に対して必要とされる配慮です。これらの配慮は、科学的知見に基づいて行われる必要があります。特に国際的には、アニマルウェルフェアを確保するために、以下の「5 つの自由 (5 Freedoms)」を満たすことが求められています。

- ① 飲えと渴きからの自由
- ② 不快からの自由
- ③ 痛み・傷害・病気からの自由
- ④ 恐怖や抑圧からの自由
- ⑤ 正常な行動を表現する自由

本ワークショップでは、参加者の皆さんにこの「5 つの自由」の中から 1 つを選び、それに基づいた「伝えるためのシナリオ作り」に取り組んでいただきます。

日々の業務の中で実践している事例を通じて、アニマルウェルフェアの大切さを社会にどう伝えるかを考える機会としたいと考えています。

【テーマ：「5 つの自由 (5 Freedoms)」を通して伝える】

- 実験動物の専門家から情報を得る：展示ブース出展企業の専門家の方々から、飼育管理や動物実験に関する貴重な情報を直接収集します。
- シナリオ作成：集めた情報にご自身の経験を加え、一般の方に「伝える」ための効果的なシナリオの枠組みをグループで考案します。
- 全体共有：各グループで作成したシナリオの枠組みを共有し、互いのアイデアから学びを深めます。

このワークショップを通じて、技術者である皆さんに「5 Freedoms」への理解を深め、専門知識とともに「伝える力」を身につけることで、社会に向けて日々の仕事の意義を発信するための新たな「話題の引き出し」を増やすことを目指します。

【ワークショップ概要】

日時：10 月 25 日（土）8:50～10:50

場所：ホワイエ

定員：30 名程度（事前募集：メルマガや HP より募集）

○司会進行 野口 和浩（熊本大学）

○科学コミュニケーション推進委員会メンバー

白井 朋美（株）浜松ファーマリサーチ

中野 洋子（帝京科学大学）

新田牧希江（ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン（株））

山岸 義尚（株）夏目製作所

渡辺 千絵（共立製薬（株））

福田 修平（ラビックス（株））

田中 純理（ラビックス（株））

サイエンスアゴラブース出展協力者

坂本 雄二（株）ケー・エー・シー）

サイエンスアゴラのブースを再現するよ！

○場所：多目的ホール

（ブースの再現展示は 24 日から 25 日の午前まで）

○解説ツアードイツ：10 月 24 日（金）

1 回目： 9:50～10:20

2 回目： 14:30～15:00

